

# マンガでわかる！国土管理

## ～カンタとリコの訪問記

しばた

## 新潟県新発田市編



国土交通省国土政策局  
総合計画課国土管理企画室

# ～ 主人公の紹介 ～

- ・ カンタのアツすぎる思いに共感し、そのあとを追いかけて始めたピュアな少女。
- ・ 知識はまだ少ないが、時折鋭い質問が飛び出すことも。

- ・ 日本の美しい国土を未来に残していきたいという思いを抱く、大志ある少年。
- ・ 全国各地の事例を自分で勉強していて詳しい。
- ・ マンガの登場人物と既に知り合いであることも。



リコ

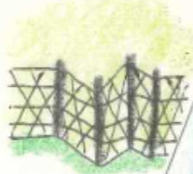
カンタ

かみさんこう  
 今度、上三光集落で農業体験  
 イベントがあるんだけど、  
 参加してみる？  
 現場の話がたくさん  
 聞けると思うよ。

ぜひ！！



どんな風に使われて  
 いるんだろう。



かみさんこう せいらゆう かい  
 上三光清流の会代表の小柳  
 です。カンタ君、リコちゃん、  
 今日は遠くから参加いた  
 だきありがとうございます。

後日  
 ……

あ、あそこにある電気柵、  
 この地図の黄色い線と  
 同じ形をしています！



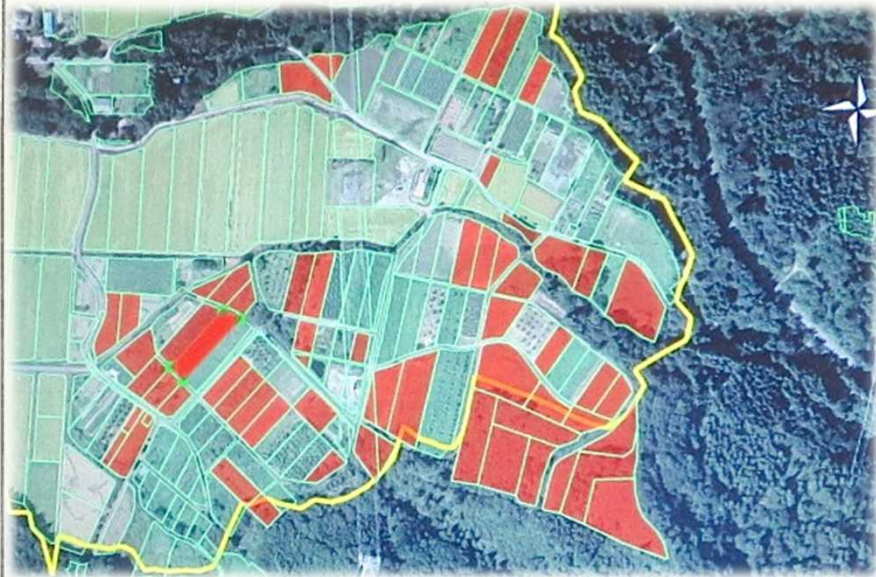
はじめまして！

**G**eographic…地理  
**I**nformation…情報  
**S**ystem…システム

事前に色々勉強して  
 くれたんですね。  
 あの地図は、GISを使って  
 作っているんですよ。

じいあいえす??

色んなデータを地図上  
 に重ね合わせて表示す  
 るためのシステムです。



しばた かみさんこう  
 新潟県新発田市の上三光と  
 いう集落の人たちが作った  
 ものなんだよ。



ねえねえ、この地図は何？  
 農地が色分けされているね。  
 あの黄色い線は何だろう。





そうです。集落のみんなが協力し合う必要があります。だからこそ、みんなの合意を得るのが難しいんです。

人手がたくさん必要そうな対策ばかりですね。

みんなで協力しないと...

Aさんの土地が狙い目だぜ!



野生鳥獣への対策に、こうした力が大きく発揮されました。

集落全体で支え合う力が強くなりそうですね!



そのとおりです。地域資源の活用と両立させた、楽しい交流イベントも生まれてきていますよ。

みんなが地域の現状を知ったからこそ、合意形成できたということですね。



がんばろう!



電気柵の設置

中に入れない...

専門家のアドバイスももらいながら、色々な対策を検討しました。

どんな対策を検討したんですか?



柿酢づくり体験

電気柵見学ツアー

えー。持ってっちゃうの?

落ちてる柿は全部もっていきま〜す。

そっち行けない

柿酢として活用しよう!



あ! イノシシが困ってる。

電気柵って、カッコイイ!

里山に人の声があるのが大事なんだね。

6



放置された果樹の伐採

荒廃農地の再生

対策前

対策前

あ、柿だ! 美味しそう♥

絶好の隠れ家だ♥

対策後

対策後

ここに来ても無駄だな。

ごちそうがなくなってる!

山に戻ろう。

わあ、ボクたち目立ちまくりじゃん。

5



## 取組事例に学ぶ課題と解決の方向性

### 人（主体）の視点

「地域の営業マン」として外部への働きかけを精力的に仕掛ける人や、こうした取組が地元との軋轢（あつれき）を産まないよう円滑に進めていくための調整役など、多様な人材がそれぞれの役割を果たし、リーダーシップを発揮していくことが重要です。

新潟県新発田市上三光集落では、対外的な情報発信を行う小柳氏をはじめ、集落内での調整、会計など、適材適所で多様な人材がそれぞれの役割を果たしています。また、人脈を活用した外部スタッフの協力も得ています。



### 人（主体）の視点

活動の中核となる組織を設立することで、中心人物の引退等があっても、組織内の世代交代によって取組の持続性を高めることにつながります。

新潟県新発田市上三光集落では、地域の取組を進めるに当たり、取組の持続性と機動性を確保するため、地域住民で構成する別組織として「上三光清流の会」を立ち上げました。



### 人（主体）の視点

一般的に、様々な視点からの効果を期待するような取組については、分野ごとの専門家による技術的な知見や支援が必要となります。その際、地域には退職者を含め、重機の免許を有する、土地・不動産制度に詳しいなど、様々な知識や技術を有する者がいることもあり、こうした人材を巻き込むことも重要です。

新潟県新発田市上三光集落では、GISの導入に当たり、地域内の建設会社出身者の知見を活用しました。また、鳥獣被害対策の検討に際しては、集落として専門家を招き、対策を検討しています。



# 取組事例に学ぶ課題と解決の方向性

## 人（主体）の視点

農村での自然体験などの交流活動は、地域外住民などの外部の関係主体の意識の向上につながるほか、外部から見た地域資源の価値を地域住民が再認識する良い機会となります。

新潟県新発田市上三光集落では、農業体験交流を住民意識の向上・維持にもつなげました。



## 土地の視点

客観的には大規模とは言えない地域資源であっても、無理のない形で上手に活用することが有効です。特に、地域資源として活用できる自然環境を把握し、共有するための調査を行うことも有効な手段です。

新潟県新発田市上三光集落では、集落環境診断を通じ、鳥獣被害の実態を地域住民で把握・共有するとともに、診断でのワークショップを通じて里山や川に関する地域住民の意識向上を図りました。また、地域の資源や農業文化を活用して、農村と都市の交流を促進しました。



## 土地の視点

GISも活用しつつ、土地の現状や課題、地域の資源を地域の内外で共有し、誰もが簡単に把握できるよう「見える化」することが重要です。課題や資源を分析し、認識を共有することで、地域外住民も含めた「共助」の基盤となり、地域が一体となった取組につながります。

新潟県新発田市上三光集落では、GISを活用して農地の所有者や耕作者などの情報を集落住民の間で共有したことにより、住民が土地に関する課題も含めて把握することができました。放棄されている土地を共同管理する土地利用計画もできました。



## 仕組みの視点

人口減少下の状況で、長期的な人手不足に対応するためには、担い手の確保と併せ、土地の管理の省力化・合理化も重要な要素であり、GISやクラウドサービスを活用した情報の整理・共有など、ICT（情報通信技術）の活用が有効な場合があります。

新潟県新発田市上三光集落では、GISを活用して集落住民間で課題を共有しています。情報が可視化されることで、世代間の情報格差の改善にもつながりました。



## 参考情報

上三光清流の会では、Facebookページを開設しています。こちらもぜひご覧ください！  
<https://ja-jp.facebook.com/kamisanko/>

